

徳島県立阿南支援学校ひわさ分校
令和5年度 第3回学校運営協議会 会議録

1. 日 時	令和6年2月21日(水) 15:00~16:00<音楽室>
2. 会次第	
1) 学校長挨拶	[西 校長] 今までご意見いただいたことを実現できるように頑張ってきた。一年間の取り組みを評価してもらうようよろしくお願いいたします。
2) 協議	①今年度のこれまでの取組について 学校評価(年度末評価)について [資料:学校評価参照] ・各学部(小中学部、高等部) ・各課(教務課、進路課、支援課、環境課、生活課) その他の行事等の教育活動について [スライド(写真)で各活動を説明] ・特別支援学校ポッチャ大会(11月29日) ・サッカー教室:徳島県サッカー協会主催(11月に5回実施) ・高等部後期就業体験 ・デフパペットシアターひとみ(12月21日) ・NPO出前授業:リトミック(1月16日) ・県庁で作品展(10月7日~11月5日) ・地域貢献活動(12月19日、1月19日) ・特別支援学校スポーツ合同練習会(1月17日) ・キャリア教育出前授業(1月11日) ・森ハンカチーフ工場見学(1月23日) ・ビルメンテナンス検定(1月26日) ・駅伝大会(2月7日) ・中学部はたらく体験学習(2月8~9日) ・OLUYOチャリティ展WITH阿南支援学校 ○ポスターに写真を掲載したので、支援学校の生徒と一緒に作っているのが分かりやすかった。展示していた生徒作品を「買いたい」というお客さんもいた。メディアにも事前に投げかけていたので、すぐ取材に来てくれた。 →校内の行事では売れない商品も売れた。生徒は楽しかったと言っていた。 ・拡大進路相談(高等部2年生) ・日本情報処理検定 ・徳島県中学校総合文化祭 ・歯と口の健康ポスター授賞式 ホームページについて ○ホームページがよくできているので、県で表彰してほしいくらい。 →進路の情報やその他の行事もよく更新してくれているので、見てほしい。 ○進学教育相談の時にひわさ分校の紹介として、ホームページを案内してみようと思う。 →今年度は、毎週のようにホームページを更新している。生徒投稿記事のコーナーも新設されて、たくさん更新されている。 ○みなさんが言ったことを着実に実行してもらってよかった。

②各委員より

○ひわさ分校がやっていただいたことは大変だったことだと思う。私もイベント(OLU YOチャリティイベント)を支援学校の子どもとやってみて、生徒も達成感があったことと思う。知らない人と触れ合うという緊張感がある、今までにない体験ができたのではないかと。生徒によっては入るのも嫌がる子もいた。初めての場所に嫌がり、緊張をさせてしまったのではないかと考えていたが、慣れてきて、お客さんと接するうちに対応ができるようになるのを見て、やって良かったと思う。地域の人にも来てもらって、安いしかわいいと言って買ってくれた。これからも寄付を目的にイベントを継続していきたい。

○花畑と関係があって、技能生の朝ご飯のパンとして買っていたが、最近は自炊をするようになったので利用していない。花畑から、作業所で「丸本にできることはないか？」と聞かれたが、一作業の量が多いためなかなか頼める仕事がない。

○今日、突然の雷があったが、ひわさ分校の児童生徒はどうだったのか？避難訓練等の防災に取り組んでいるが、本当に起きた時、個々によっていろいろな反応があると思う。パニックになる子もいるかもしれない。そんな時に個々に応じた対応が想定されているか？想定以上の災害が起きた時、「この子がどのような状態になるかな？」と考えているか。計画的にされているかが気になる。職員の共有もされているか、教えてもらいたい。

ホームページは昨日見ていた。ポッチャの準優勝もホームページで見た。たくさん情報が入っていて、ひわさ分校のことがよくわかる。ただ、学校紹介の(古い?)動画が見にくい。写真で校舎の様子をスライドショーにするだけでよいのではないかと。

○(防災の件について)大川小と韓国の修学旅行のこともあるが、教員の指示に従ったことで死んでしまう場合がある。教員が管理できる場面とそうでない場面があるが、そうでない(教員が管理できない)場面に数分でちょっと高い所に逃げる等の生き抜く力をつけてほしい。

ホームページはひわさ分校のことがよくわかる。地域の方は、「支援学校はレベルの低いことをしているので、うちの子にそぐわない」と思っている人もいる。そんな人ほど、学校見学に行ってもらいたい。中・高等部の授業も高度なことをしている。ホームページを見てもらうようにしたらよい。

交流及び共同学習でもひわさ分校でどんな勉強をしているかを実際に見てもらういい機会。

チャリティーイベントは学校まで購入に来れない人もいるので、よかったのではないかと。今後も、ひわさ分校に外部の人が来る機会(参観日や研修等)に来校者にテーブルの上に商品を並べて販売をしたらいい。販売での売り上げで子どもたちの好きな物を買って、さらに意欲につなげてほしい。

コミュニケーションを課題とする子は多くいると思う。高等部のコミュニケーションに関する目標は具体的にどんな目標があるか？

→発達段階によってコミュニケーションに関する目標はそれぞれである。例えば作業場面であれば、作業完了時にカードを自発的に出して報告する生徒もいれば、就労をめざす生徒の場合は、報告や返事、挨拶ができてても本当に困った時に発信できない生徒もいる。このような場合は、あえて困った場面を設定して自発的に質問するようにしている。

③学校の防災について

→震災について、ある学校は個々の教員それぞれの「逃げろ」との指示で助かった。もう一方の学校はグラウンドに全員集まって40分協議している間に逃げ遅れた。ひわさ分校の避難訓練は、以前は「避難経路の確認→放送(逃げましょう)」だったが、放送を入れずにその都度その場の教員の指示に従うという訓練

をしている。晴れの時はグラウンド、雨の時は体育館だけ伝え、それぞれの判断で逃げるようにしている。土砂災害の時には2階に上がる。一斉指示ではなく、声かけあって逃げる。生徒自身が判断するのは難しいが、そこにいる教員の指示に従って逃げる。想定できないこともあるが、今できる訓練をしている。防災マニュアルや防災食も見直す。町とも連携していかなければいけない。

○大川小は校長が不在だった。教員間でも意見がバラバラだった。さらに地域の避難所にもなっていた。津波と川からの逆流で飲み込まれた。助かった人は山登って木にしがみついていた。

避難訓練では運動場の端に集まる。もし、そこが崩れる所だったら？その土地の状況を教員は把握しておかなければならない。地震があった時、体育館と校舎ではどちらが危ないか？

→以前、体育館は土砂災害の対象だった。今は砂防ダムもでき、対象ではなくなっている。

○砂防ダムごと落ちてくることもある。それが起きたら想定外だが、その状況によって判断することになる。マニュアルの確認等、できることをしておく。

近くにいる人の指示に従うことは大事。

→落ち着いて指示に従って逃げるのが大切。いろいろなケースを(きりがなが)考えて、防災計画や訓練をその都度見直していく。

○生徒によって(災害時に)、この子は座り込む、この子は飛び出す、この子は叫ぶ等のそれぞれの反応やその対応を知っておく。それが初期の対応の仕方、初動の違いが出る。

→生徒個々が「防災カード」を持っている。ひわさ分校は人数が少ないのでほぼマンツーマンで対応ができる。

○生徒によっては、引っ張られたら嫌な人もいる。そのような特性を教員が共通理解できるか？

→誰からも支援を受けられるのがよいが、難しい生徒もいる。その場合は、○○先生か□先生か△△先生とだったらいける、というように支援できる教員を複数持てるようにしている。「担任の言うことしか聞かん」では子どもも損をする。学年が変わると担任も変わるコミュニケーションが複数の人と取れることは、働くという意味でも大事(般化)。

[校長]

貴重な意見に感謝を申し上げる。いただいた意見は、学校にとって「こうしよう」という励みになる。

来年度について、委員の任期は1年であるが、「再任を妨げない」ことになっているので、引き続き委員の方にはお願いしたい。

3) 学校長挨拶

④次年度の学校運営協議会について

来年度、1回目の学校運営協議会は5月下旬～6月上旬を予定している。

4) 連絡事項